

外国語教授法としての MERRIER Approach

浦野 研 (北海学園大学)
urano@ba.hokkai-s-u.ac.jp

中部地区英語教育学会・長野支部
2011年度第2回研究会@清泉女学院大学
2011年7月31日

1

本発表の目標

- 指導技術 (method/technique) ではなくアプローチ (approach) としてとらえることで、MERRIER Approach (MA) を理論的に整理する。
- SLA 研究の知見をもとに、MA に基づいた指導技術に発展的な提案をする。

2

アプローチ、メソッド、 指導技術

- アプローチ (Approach)
- メソッド (Method)
- 指導技術 (Technique)

3

アプローチ、メソッド、 指導技術

- アプローチ (Approach)
 - ... *approach* refers to theories about the nature of language and language learning that serve as the source of practices and principles in language teaching. (Richards & Rogers, 2001, p. 20)
- メソッド (Method)
- 指導技術 (Technique)

4

アプローチ、メソッド、 指導技術

- メソッド (Method)
 - 言語材料の配列を含め、具体的な指導方法を体系化したもの (村野井・千葉・畑中, 2001, p. 57)
- アプローチ (Approach)
- 指導技術 (Technique)

5

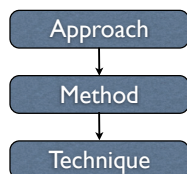
アプローチ、メソッド、 指導技術

- 指導技術 (Technique)
 - A technique is implementational—that which at it actually takes place in a classroom. It is a particular trick, stratagem, or contrivance used to accomplish an immediate objective (Anthony, 1963, p. 67)
- アプローチ (Approach)
- メソッド (Method)

6

アプローチ、メソッド、 指導技術

- 3者の関係
- The organizational key is that *techniques* carry out a *method* which is consistent with an *approach*. (Anthony, 1963 p. 63)



(from Johnson & Johnson, 1998, p. 11)

7

アプローチ、メソッド、 指導技術

- 具体例



Focus on Forms
形式重視のアプローチ

Audiolingual Method

Pattern Practice

8

なぜアプローチに 注目するのか

- 個々の教師は、言語習得の原則を踏まえた上で、それぞれの実情に合わせて、様々な選択肢から有効となるものを取捨選択していかなければならない。その際に重要となるのが、教師の授業の根幹にある「英語習得観・教育観」である。(和泉, 2009, p. v)

9

なぜアプローチに 注目するのか

- 「英語習得観・教育観」を持たずに行き当たりばったりで色々なアイディアや指導技術を使っても、指導に一貫性がないため効果が上がりにくい。

10

MERRIER Approach

指針	定義
(1) Model/Mime	言語外情報を活用する。見本を提示する。
(2) Example	抽象的な内容を具体的に示す。
(3) Redundancy	同一内容を別の発想で言い換える。
(4) Repetition	大切なことを繰り返す。
(5) Interaction	学習者と相互交渉をする。
(6) Expansion	学習者の発話を補強して繰り返す。
(7) Reward	学習者の反応に対して肯定的なコメントをする。

(酒井, 2003, p. 4 に基づく)

11

MERRIER Approach

- どんな習得観・教育観（アプローチ）に基づいているか
 - Focus on Meaning（意味重視のアプローチ）が出发点
 - Natural Approach と接点が多い
 - インプットの質を良くするための指標と考えられる
 - ただし MERRI から MERRIER と名称変更したころから、インタラクションやアウトプットへの言及も見える
 - Focus on Form と通ずる部分が多いのでは

12

Focus on Form

- During an otherwise meaning-focused classroom lessons, focus on form often consists of an occasional shift of attention to linguistic code features—by the teacher and/or one or more students—triggered by perceived problems with comprehension or production. (Long & Robinson, 1998, p. 23)

13

3つの言語習得観



14

3つの言語習得観



16

3つの言語習得観

FonFS	FonF	FonM
<ul style="list-style-type: none"> • 統合的教授法 • 最初から正確にきちんと押さえていくやり方 • 文法訳読式教授法 • オーディオリンガル・メソッド • 文法シラバス • 概念/機能シラバス • 教師主導 • 外的シラバス重視 • 養育重視 	<ul style="list-style-type: none"> • 分析的教授法 • 最終的に見につけていくやり方 • 内容中心教授法 + 適時の教育的介入 • タスク中心教授法 + 適時の教育的介入 • トピック/テーマ・シラバス • タスク・シラバス • 学習者主導 • 内的シラバス重視 • 自然力の養育を重視 	<ul style="list-style-type: none"> • 分析的教授法 • とにかくよく聴いて、よく読むやり方 • 一石二鳥のやり方 • 内容中心教授法 • タスク中心教授法 • トピック/テーマ・シラバス • タスク・シラバス • 学習者主導 • 内的シラバス重視 • 自然力重視

(和泉, 2009, p. 148 に基づく)

17

MA と FonF

- MA を FonF と同系列ととらえることで、以下の習得観・教育観を共有できる
 - 良質なインプットをたくさん提供することが大前提
 - インプットの意味内容に重点を置く
 - ただし意味だけでなく、形式・意味・機能の3要素の結びつきを学ぶことが重要である
 - 必要に応じて形式にも意識を向けるよう仕向ける（「気づき」）
 - アウトプット、インタラクションの機会も用意する

18

MA への発展的提案①

- Expansion について
 - 「言い直し (recast)」とほぼ同義
 - Recast 以外にも気づきをうながすのに効果的な指導技術がある

19

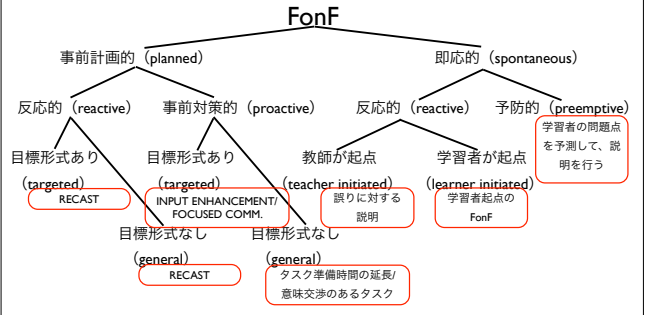
MA への発展的提案①

- FonF の指導方法 (Doughty & Williams, 1998; 村野井, 2006, p. 106 に基づく)

	障害しない (unobtrusive) ↔ 障害する (obtrusive)
インプット洪水 (input flood)	X
タスク必須言語 (task-essential language)	X
インプット補強 (input enhancement)	X
意味交渉 (negotiation)	X
リキャスト (recast)	X
アウトプット補強 (output enhancement)	X
インタラクション補強 (interaction enhancement)	X
ディクトグロス (dictogloss)	X
意識高揚 (consciousness-raising)	X
インプット処理 (input processing)	X
ガーデン・パス (garden path)	X

MA への発展的提案①

- FonF の種類 (Williams, 2005; 村野井, 2006, p. 104 に基づく)



MA への発展的提案②

- イマージョン教育におけるインプット理解を促す効果的な方法 (和泉, 2009, pp. 71-72)

- 話すスピードを落とす
- 話すペースを長くして、生徒に言語処理の時間を与える
- 明瞭な発音で、誇張したイントネーションで話す
- 重要な単語やフレーズを強調したり、繰り返したりする (REPETITION)
- 頻繁に使われる語彙を多用しスラングや熟語をあまり使わない
- 同じ単語や文、センテンス・パターンを繰り返し使う (REPETITION)
- 言い換えを多用する (REDUNDANCY)
- 具体例を使う (EXAMPLE)
- 意味を説明する定義を使う (EXAMPLE?)
- 同義語を使う (REDUNDANCY)
- 母語からの借用語など、生徒が既に知っているような単語を使う
- 視覚的に訴える教材を多用する (MODEL/MIME)
- ジェスチャーや顔の表情を豊かに使う (MODEL/MIME)
- 生徒が既に知っていることや、生徒の経験と結びつけて、新しい学習内容を提示する
- 授業の最初に、その日の学習目標を提示し、板書しておく (EXAMPLE)
- 複雑な内容は、噛み砕いて順々に紹介する
- まず模範となるモデルを提示して、何が期待されているかをはっきりさせる (MODEL/MIME)
- 授業の展開に予測可能なパターンを作る
- 児童・生徒同士で理解を確認し合う時間を儲ける
- 教室や廊下に役立つ単語やフレーズなどを示すポスターを貼り、機会あることにそれを授業でも活用する。

おわりに

- MA を FonF と同系列ととらえることで、FonF 研究の知見を MA に当てはめることができる。
- MA を使うにあたって、一貫した言語習得観・教育観をもって授業に臨むことができる。

おわりに

- SLA 研究の成果を MA に応用することで、指導技術 (technique) として使える選択肢を増やすことができる。

引用文献・参考文献

- Anthony, E. M. (1963). Approach, method, and technique. *ELT Journal*, 17, 63-67.
- Doughty, C., & Williams, J. (Eds.) (1998). *Focus on form in classroom second language acquisition*. Cambridge, UK: Cambridge University Press.
- 和泉伸一. (2009). 「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育. 東京: 大修館書店.
- Johnson, K., & Johnson, H. (Eds.) (1998). *Encyclopedic dictionary of applied linguistics*. Oxford, UK: Blackwell.
- Long, M. H., & Robinson, P. (1998). Focus on form: Theory, research, and practice. In C. Doughty & J. Williams (Eds.), *Focus on form in classroom second language acquisition* (pp. 15-41). Cambridge, UK: Cambridge University Press.
- 村野井仁 (2006). 第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法. 東京: 大修館書店.
- 村野井仁・千葉元信・畑中孝賢. (2001). 実践的英語科教育法: 総合的コミュニケーション能力を育てる指導. 東京: 成美堂.
- Richards, J. C., & Rogers, T. S. (2001). *Approaches and methods in language teaching* (2nd ed.). Cambridge, UK: Cambridge University Press.
- 酒井英樹. (2003). 序章: MERRIER Approach のアツの指針. In 渡邊時夫・酒井英樹・堀川春彦・浦野研 (編), *英語が使える日本人の育成: MERRIER Approach のすすめ* (pp. 3-4). 東京: 三省堂.
- 渡邊時夫・酒井英樹・堀川春彦・浦野研 (編). (2003). *英語が使える日本人の育成: MERRIER Approach のすすめ*. 東京: 三省堂.
- Williams, J. (2005). Form-focused instruction. In E. Hinkel (Ed.), *Handbook of research in second language teaching and learning* (pp. 671-691). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.